

私は、岐阜県東濃地方の中小企業のアドバイザーとして弁護士・会計士・税理士・中小企業診断士・不動産鑑定士・社会保険労務士・司法書士・土地家屋調査士・FP など各分野のエキスパートが結集した専門家集団である NPO 法人 PAL 研究会の会長をしています。

先日、喜多川泰さんに講演をお願いしました。喜多川さんは、“君とあえたから”、“手紙屋” “福に憑かれた男”といった、小説形式の自己啓発書を多数出版されています。思わず、涙するほどに感動する本です。本の感動のため、スタッフ会議で是非講演という話になりました。

当日の喜多川先生の講演は、素晴らしいもので、参加者にも大変大好評でした。しかし、そこで神経内科医として、提言です。多くの参加者は、“良かった”、“感動した”と言って、そのまま日常生活に戻ってしまいます。それでは、1 週間もすれば、記憶はほぼ完全に消失してしまいます。それを防ぐには、何より復習です。自分なりに、まとめなおすことが重要です。つまりインプットされた情報を、アウトプットするのです。そうする事で、短期記憶から、長期記憶化され、経験が血肉になるのです。

喜多川先生の講演の中で、最も心に残った話が以下です。

不安と希望は、同じ場所から見える景色の認識の違いです。たとえば、戦後、住む場所、家財道具、お金、仕事などすべてを失った状況下でも不安をもった人と、希望を持った人がいたのです。

人間は、不安をもつ人は、安定を求めます。そしてその安定は、他人依存になります。しかし、人生いつも上手くいくとは限りません。結果として上手くいかない事もあるものです。しかし、安定を求めた人は、“そんなはずではなかった”と行動を失敗と認識してしまいます。

一方、希望を持つ人は、自分の可能性を信じて挑戦をします。結果として、上手くいかなかった際には、経験と認識します。そして、不安をもった人と違う事は、再び挑戦に戻ることです。そして経験と挑戦を繰り返すことになるのです。

その状態は、周囲からは“激しく回るコマ”のように見えるのです。その激しく回るこまは、じつは一歩足で不安定ですが、挑戦し続けることで激しく回転し「真の安定」を得るのです。さらに、一見すると、止まっているようにさえ見えるのです。

つまり、我々は、個人や法人も、挑戦し続けることで「真の安定」を得るのです。

これには、大変感銘を受けました。当医療法人ブレイングループも、挑戦し続けることで真の安定を実現します。

1) 喜多川泰さんは、どのような形式の本を多数出版されていますか？

()

2) 感動した記憶を、短期記憶から、長期記憶化して血肉にするにはどうすればよいですか？

()

3) 不安と希望の違いは？()

4) 希望を持つ人と、不安をもった人と違う事は？()

5) 激しく回るこまのようにし「真の安定」を得るにはどうすれば良いですか？

()